

One世界分散セレクト (Cコース)

<愛称：100年ギフト>

追加型投信／内外／資産複合

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、外国投資信託への投資を通じてわが国を含む世界各国のさまざまな資産へ分散投資を行い、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を図ることを目的として、運用を行います。

当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間 2019年9月18日～2020年3月16日

第7期	決算日：2019年11月15日	
第8期	決算日：2020年1月15日	
第9期	決算日：2020年3月16日	
第9期末 (2020年3月16日)	基準価額	8,172円
	純資産総額	5,759百万円
第7期～ 第9期	騰落率	△8.9%
	分配金合計	360円

(注1) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。

(注2) △(白三角)はマイナスを意味しています(以下同じ)。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター **0120-104-694**

(受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)

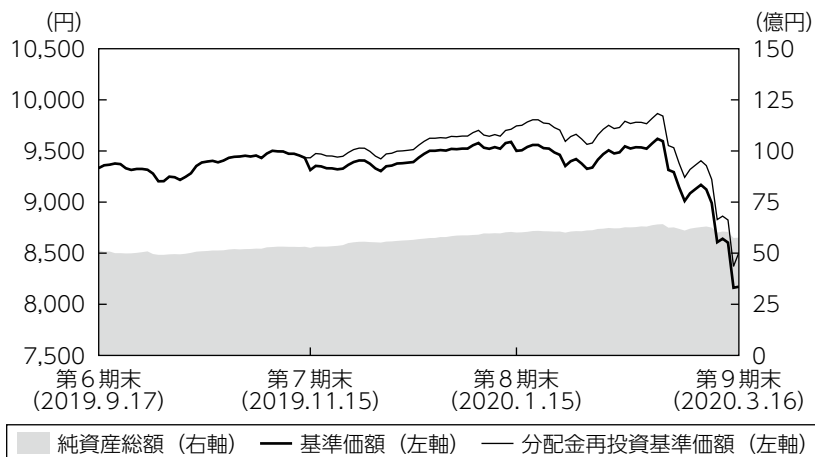
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2 <http://www.am-one.co.jp/>

運用経過の説明

基準価額等の推移



第7期首： 9,333円
 第9期末： 8,172円
 (既払分配金360円)
 騰落率： △8.9%
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の主な変動要因

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受けた景気後退懸念などから、2020年2月下旬以降、先進国、新興国ともに株式市場が下落したことがマイナスに寄与しました。また、2020年3月に新興国債券やハイイールド債券の利回りが上昇（価格が下落）したことなどもマイナスに寄与し、基準価額は下落しました。

◆組入ファンドの当作成期間の騰落率

組入ファンド	騰落率
Oneグローバル・ダイナミック・アロケーションファンドⅡ Aクラス	△8.8%
DIAMマネーマザーファンド	△0.1%

(注) Oneグローバル・ダイナミック・アロケーションファンドⅡ Aクラスの騰落率は、分配金を再投資したものとみなして計算したものです。

1 万口当たりの費用明細

項目	第7期～第9期 (2019年9月18日 ～2020年3月16日)		項目の概要
	金額	比率	
	(a) 信託報酬	36円	
(投信会社)	(11)	(0.119)	
(販売会社)	(23)	(0.244)	
(受託会社)	(2)	(0.016)	
(b) その他費用 (監査費用)	0 (0)	0.001 (0.001)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
合計	36	0.381	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

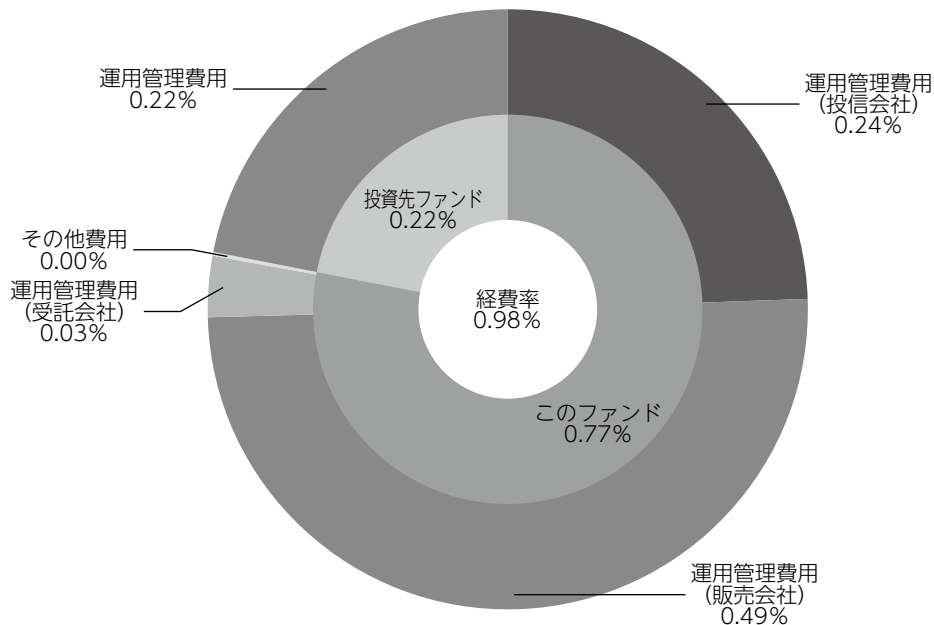
(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。

(参考情報)

◆経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は0.98%です。



経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く）（①+②）	0.98%
①このファンドの費用の比率	0.77%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.22%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

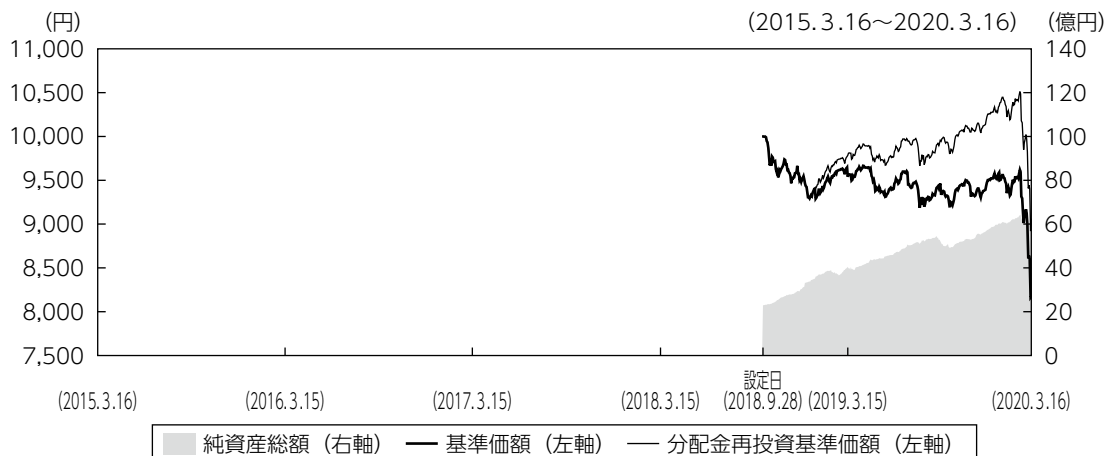
(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がありますが、上記には含まれておりません。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 基準価額は、設定日前日を10,000として計算しています。
- (注4) 分配金再投資基準価額は、設定日前日を10,000として指数化しています。

	2018年9月28日 設定日	2019年3月15日 決算日	2020年3月16日 決算日
基準価額 (分配落) (円)	10,000	9,540	8,172
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	240	720
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	△2.2	△7.4
純資産総額 (百万円)	2,295	4,043	5,759

- (注1) 設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しております。
- (注2) 当ファンドのコンセプトに適した指数が存在しないため、ベンチマーク及び参考指標を定めておりません。

投資環境

2019年10月以降、米中貿易摩擦への懸念の後退などから、各国の株式市場は概ね上昇基調で推移しました。しかし2020年2月以降は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受けた景気後退懸念などから、世界的な株価下落局面となり、新興国債券やハイイールド債券も売られるなど、市場はリスク回避姿勢が強まりました。

為替市場では、2019年10月以降、米中貿易摩擦への懸念の後退や株式市場が上昇基調で推移したことなどから、主要通貨に対して緩やかに円安が進行する局面がありました。その後、2020年3月は米国の利下げなどを受けて一時的に急速に円高が進行するなど、方向感がはっきりとしない市場環境が継続しました。

国内短期金融市場では、3ヵ月物国庫短期証券利回りは△0.3%台から△0.0%台のレンジで推移しました。米中貿易問題の第一段階合意を受けて、市場が落ち着く場面もありました。しかし、2020年1月の後半以降は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、市場のボラティリティが高い状況が続きました。そうした中、日本銀行は緩和的な金融政策を維持したことから、3ヵ月物国庫短期証券利回りはマイナス利回りが続きました。

ポートフォリオについて

●当ファンド

Oneグローバル・ダイナミック・アロケーションファンドⅡ Aクラスの組入比率は原則として高位を維持し、D I AMマネーマザーファンドへの投資も行いました。

●Oneグローバル・ダイナミック・アロケーションファンドⅡ Aクラス

2019年9月から2020年2月中旬は、概ね市場環境が堅調に推移したことから、国債等のインカム資産と株式等の収益追求資産をバランス良く保有し、相場上昇の恩恵を享受しました。2020年2月下旬以降、市場環境の不安定化から、株式等の収益追求資産およびハイイールド債券の比率を引き下げ、基準価額の下落抑制を図りました。また、国内債券など利回りが低い資産については期を通じて配分を減らしました。

●D I AMマネーマザーファンド

残存期間の短い国債や政府保証債、地方債などで運用を行いました。

分配金

当作成期の収益分配金につきましては分配方針に基づき、以下の表の通りとさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

■分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第7期	第8期	第9期
	2019年9月18日 ～2019年11月15日	2019年11月16日 ～2020年1月15日	2020年1月16日 ～2020年3月16日
当期分配金（税引前）	120円	120円	120円
対基準価額比率	1.27%	1.25%	1.45%
当期の収益	120円	120円	120円
当期の収益以外	-円	-円	-円
翌期繰越分配対象額	511円	522円	524円

（注1）「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

（注2）当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

（注3）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

今後の運用方針

●当ファンド

引き続き、Oneグローバル・ダイナミック・アロケーションファンドⅡ Aクラスの組入比率は高位を維持します。また、D I AMマネーマザーファンドへの投資も行います。

●Oneグローバル・ダイナミック・アロケーションファンドⅡ Aクラス

世界の幅広い資産にバランス良く分散投資するとともに、状況に応じた適切な資産配分を行うことにより、基準価額の相対的に安定した値動きと収益の確保をめざします。

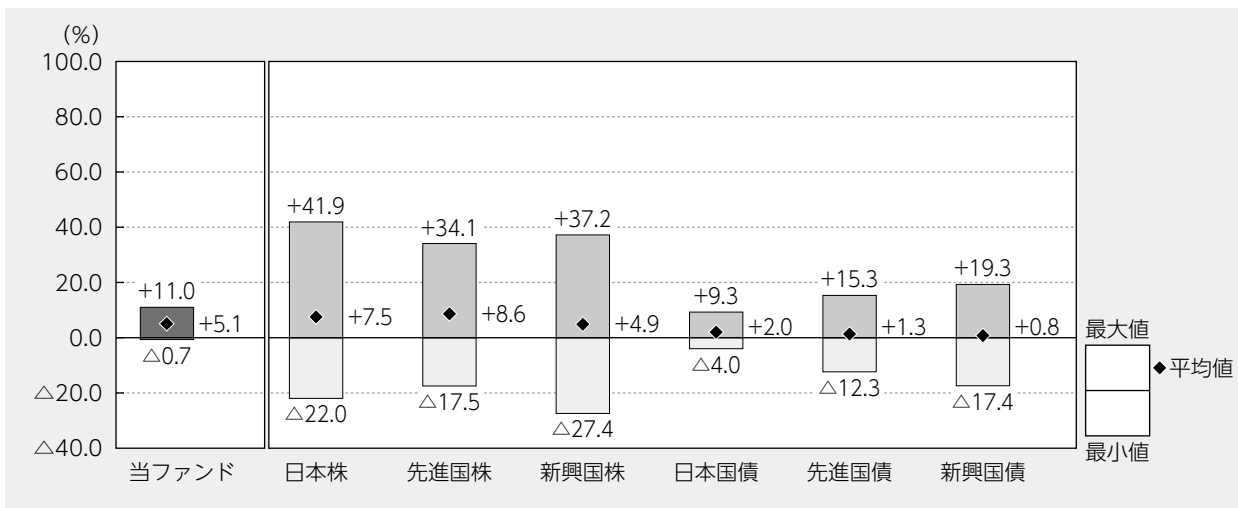
●D I AMマネーマザーファンド

日本銀行の物価目標である2%まではまだ距離があるため、当面は金融政策を据え置くと予想されています。今後も公社債を中心に投資を行い、安定的な運用をめざしていきます。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	2018年9月28日から無期限です。
運用方針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を図ることを目的として、運用を行います。
主要投資対象	別に定める投資信託証券*と「D AMマネーマザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。なお、別に定める投資信託証券については、適宜見直しを行います。 ※別に定める投資信託証券：「Oneグローバル・ダイナミック・アロケーションファンドⅡ Aクラス」
運用方法	主として、わが国を含む世界の株式、債券、不動産投資信託証券、コモディティおよびそれらを投資対象とする上場投資信託証券（ETF）を実質的な投資対象とする別に定める投資信託証券に投資します。なお、別に定める投資信託証券には、国内外の有価証券先物取引、オプション取引、スワップ取引等のデリバティブ取引および外国為替予約取引等を活用するものを含みます。 別に定める投資信託証券への投資割合は、原則として高位とすることを基本とします。 別に定める投資信託証券やその配分比率については、適宜見直しを行います。この際、投資対象として定められていた別に定める投資信託証券が投資対象から除外されたり、わが国を含む世界各国の様々な資産への分散投資に資すると判断される投資信託証券が新たな投資対象として定められることがあります。 1万口当たりの基準価額（過去に支払った収益分配金の金額は含みません。）が2,000円を下回った場合には、投資対象ファンドの売却を行い、一定期間後に繰上償還を行います。
分配方針	決算日（原則として毎年1月、3月、5月、7月、9月および11月の各15日。休業日の場合は翌営業日。）に、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、基準価額水準、市況動向等を勘案して、決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。 ※第1期（2018年11月15日）の決算は収益分配を行いません。

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



当ファンド : 2019年9月~2020年2月

代表的な資産クラス : 2015年3月~2020年2月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

*各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容 (2020年3月16日現在)

◆組入ファンド等

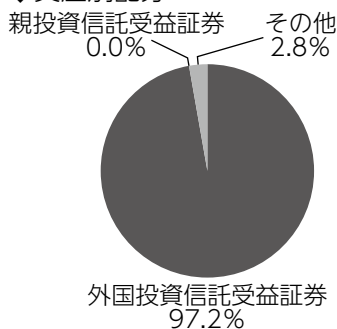
(組入ファンド数：2ファンド)

	第9期末
	2020年3月16日
Oneグローバル・ダイナミック・アロケーションファンドⅡ Aクラス	97.2%
D I A Mマネーマザーファンド	0.0
その他	2.8

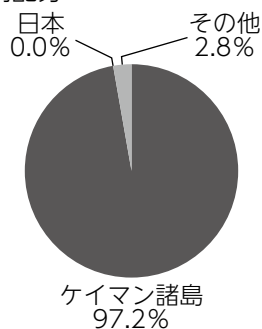
(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

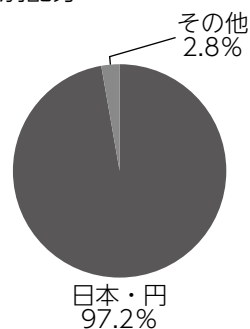
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

純資産等

項目	第7期末	第8期末	第9期末
	2019年11月15日	2020年1月15日	2020年3月16日
純資産総額	5,264,312,610円	6,009,704,059円	5,759,906,046円
受益権総口数	5,652,403,007口	6,325,126,617口	7,048,016,359口
1万口当たり基準価額	9,313円	9,501円	8,172円

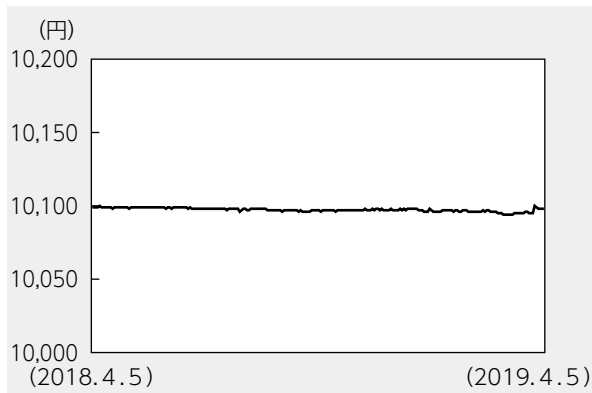
(注) 当作成期間 (第7期～第9期) 中における追加設定元本額は2,066,970,331円、同解約元本額は527,137,464円です。

※Oneグローバル・ダイナミック・アロケーションファンドⅡ Aクラスは、One世界分散セレクト (Cコース) の決算日時点でアニュアルレポートが発行されていないため、「組入ファンドの概要」は開示しておりません。

組入ファンドの概要

【D I A Mマネーマザーファンド】（計算期間 2018年4月6日～2019年4月5日）

◆基準価額の推移



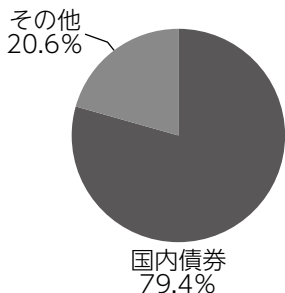
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
1 2 3 回 利付国庫債券 (5年)	日本・円	74.4%
3 9 1 回 利付国庫債券 (2年)	日本・円	1.2
3 0 1 回 利付国庫債券 (10年)	日本・円	1.2
3 9 2 回 利付国庫債券 (2年)	日本・円	0.6
3 8 8 回 利付国庫債券 (2年)	日本・円	0.6
2 1 年度 3 5 回 兵庫県公募公債	日本・円	0.3
1 1 2 回 政保日本高速道路保有・債務返済機構	日本・円	0.2
2 6 年度 4 回 静岡県公募公債	日本・円	0.1
2 7 年度 2 回 千葉県公募公債	日本・円	0.1
2 7 年度 京都府京都みらい債	日本・円	0.1
組入銘柄数	22銘柄	

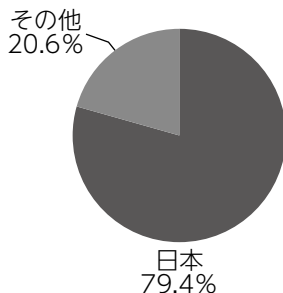
◆1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 (その他)	0円 (0)	0.000% (0.000)
合計	0	0.000

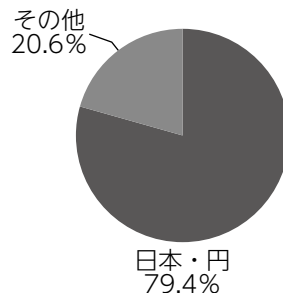
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万口当たりの費用明細の金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額（10,097円）で除して100を乗じたものです。なお、(a) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数です。その他は、信託事務の処理に要する諸費用等です。

(注3) 組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注5) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注6) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

- 「東証株価指数（TOPIX）」は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会社東京証券取引所（㈱東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、㈱東京証券取引所が有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- 「FTSE世界国債インデックス（除く日本）」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド」は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。